

ソフトテニスの発展のための方策に関する検討

A study on the measures to promote soft tennis

1K06B230

指導教員 主査 吉永武史先生

山崎 裕貴

副査 宮崎正己先生

【研究の動機】

ソフトテニスの認知度は、硬式テニスとは明らかに違い、ソフトテニスはマイナースポーツという見方が一般的である。中学校時代に多くの生徒が男女を問わずソフトテニス部に所属しているという現実があるにもかかわらず、どうしてソフトテニスは普及しないのか。この問題は無視できない問題であると感じたためこのテーマを設定するに至った。

【本研究の目的と方法】

本研究ではソフトテニスの認知度が低い原因を明らかにし、今後普及発展させていくための方策について検討することを目的とする。ソフトテニスの歴史と現状を明らかにするとともに、ソフトテニスに普及しにくい原因を追究し、これからのソフトテニスの在り方を提言したいと考える。

< 第1章 >

第1章では、ソフトテニスがどのように誕生し、どのようにして形作られていったか、ルールの変更等も踏まえて述べ、現在のソフトテニスの状況を明らかにし、硬式テニスとのルールの違いを検討することで、ソフトテニスの特性を明確にした。今まで知らなかったソフトテニスの歴史や種目特性をはっきりさせることができた。

< 第2章 >

第2章では、発達段階別にソフトテニスを検討するとその問題点が浮き彫りになった。ジュニアスポーツとしてのソフトテニスでは、競技としてのソフトテニスを発展させる一方で、ジュニアのソフトテニス人口の拡大、つまり底辺の拡大を図っていかねばならない。運動部活動としてのソフト

テニスについては、高校に比べて、中学校・大学において全国大会が少ないことや中学校・高校においへ明らかにシングルの大会が少ないという問題が存在する。成人としてのスポーツにおいては、実業団チームの不況の波を受けての衰退やソフトテニスをしたいという人が手軽にプレーできる環境を提供するチームがそう多くはないことが問題である。これらの発達段階別にソフトテニスの現状を追究した章である。

< 第3章 >

第3章では、ソフトテニスのさらなる発展のために体育教材としてのソフトテニス、ソフトテニスの国際化の推進、メディアとソフトテニスの関係について言及した。初心者にとって難しいソフトテニスを体育教材として取り扱うためには、1年生から3年生までを通して授業を行い、基礎練習の中にもゲーム性を持たせて練習を行わせることが重要である。ソフトテニスの国際化を推進するためには、アジアだけでの普及にとどまらず、欧米の国々でソフトテニス競技を普及させる必要がある。ソフトテニスとメディアの関係については、ソフトテニスにメディアに取り上げられるようになるためには、若い選手の台頭やルックスと素晴らしいキャラクターを兼ね備えた選手の活躍が求められる。一方で、メディアの商業主義が行き過ぎないようにメディアとの関係を保つ必要がある。

< 結章 >

ソフトテニスを愛好する人口は少ないわけではない。そのため、これからソフトテニスにメジャースポーツへ発展していく可能性は十分にある。これまで述べてきた問題を1つずつクリアしていく

ことがソフトテニスのメジャースポーツ化になるための方法であると提言した。